



東校だより

2月号

令和5年1月31日
横浜市立東小学校
校長 保科 桂子

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/azuma/>



ブレーキとハンドル

校長 保科桂子

立春が近いとはいえ、まだまだ寒い日も続いています。1月の土曜参観、多文化交流集会では、子どもたちの学びの様子をご覧いただきました。ご参観ありがとうございました。コロナもインフルエンザも心配な時期ではありますが、予定通り開催することができほっとしています。引き続き元気に、この寒さを乗り切りたいものです。

年末に卒業文集の編集をしていた6年生の担任の姿を見ていて、自分の小学校の時の卒業文集を思い返しました。当時の副校長先生が寄せてくださったメッセージをご紹介しますと思います。

ブレーキとハンドル

人間が他の動物と違うところはたくさんありますが一番だいじな点で違うのは、「人間には理性がある。」ということです。理性とは、「遊びたい。けんかしたい。」などの感情の動きをおさえたり、「勉強したくない。働くのがいやだ。」などの気持ちを「勉強しなければならない。働かなければならない。」という気持ちに変えさせたりする力を出すはたらきです。この理性のはたらきがあるから、人間は住みよい社会を自分たちの努力によってつくり出すことができるのです。「理性」とは、自動車にたとえれば、ハンドルやブレーキのようなはたらきをするものと言えるでしょう。

ハンドルやブレーキのはたらきがよくない自動車に乗るのは自分にとって大変危険なことですし、他人にもひどいめいわくをかけることです。性能のよいブレーキとハンドルを持つ人となって、自分のまわりの人たちにより影響を与えることができるようになりたいものです。わたしたちが学校に行っている時はもちろんのこと、社会人となってからも常に勉強をし続けていくことが大事なことは、こういう調和のとれた人間になるためだと言ってもよいでしょう。

皆さんの将来に予想されるいくつもの試練は「ブレーキとハンドル」の性能を確かめ方向を誤らずに進んでいくための道しるべであるというふうに考えて、くじけずに乗りこえて行ってください。

卒業文集には副校長先生の美しい字で書かれていて、何か先生からの授業のようで、「卒業」という文字は一つもないけれど、小学校を卒業して生きていくのだなという思いを抱かせてくれました。「どうして学校に行くのだろう」「なんで勉強をするのだろう」という答えの一つもここにあるのかなと考えます。

日常生活の様々な場面で様々な選択が繰り返されます。どのように考えますか。どのように行動していきますか。私も自分自身に問いながら、一生懸命に生きていきたいと思っています。